

建築用真空断熱材の見掛けの熱伝導率の 長期変化試験方法

正 誤 票

| 区分 | 位置 | 誤 | 正 |
|-------|----------------------------|--|---|
| 本体 | 3.2 表 1 記号 K 定義の欄 | 被覆材の単位表面積当たりの透過率 | 被覆材フィルム面の単位表面積当たりの透過率 |
| | 6.3.3 b) 式(13) | $\lambda'_{t, \text{std}} = \frac{1}{f_v} \cdot \lambda'_{t, \text{acc}} + \lambda'_p \cdot \frac{P_{\text{air, sp, std}}}{d} \cdot \left(1 - \frac{f_{\text{air}}}{f_v}\right)$ | $\lambda'_{t, \text{std}} = \frac{1}{f_v} \cdot \lambda'_{t, \text{acc}} + \lambda'_p \cdot \frac{8.61 \cdot 10^6 \cdot P_{\text{air, sp, std}}}{(d \cdot A_{\text{sur, sp}})} \cdot \left(1 - \frac{f_{\text{air}}}{f_v}\right)$ |
| | 6.3.3 b) 式(13) ここに、 | $\lambda'_{t, \text{std}}$: COP の標準条件における見掛けの熱伝導率変化率 [W/(m・K・Pa)] | $\lambda'_{t, \text{std}}$: COP の標準条件における見掛けの熱伝導率変化率 [W/(m・K・day)] |
| | 6.3.4 a) 式(14) ここに、 | λ_{ini}^* : 修正熱伝導率 [W/(m・K・day)] | λ_{ini}^* : 修正熱伝導率 [W/(m・K)] |
| 附属書 D | D.2.3 d) | 試験体の標準条件…式(D.1)によって、被覆材のフィルム面の水蒸気透過率を求める。式(D.1)における試験体の蒸着複合フィルムの表面積は、端部シール層の内り面積のうち…とする。 | 試験体の標準条件…式(D.1)によって、被覆材フィルム面の単位表面積当たりの水蒸気透過率を求める。式(D.1)における試験体の被覆材フィルム面の表面積は、端部シール層の内り面積のうち…とする。 |
| | D.2.3 d) 式(D.1) ここに、 | $K_{v, \text{std}}$: 製品のフィルム面の標準条件における水蒸気透過率 [g/(m ² ・day)] : $A_{\text{sur, sp}}$: 試験体の蒸着複合フィルムの表面積 (m ²) | $K_{v, \text{std}}$: 被覆材フィルム面の単位表面積当たりの標準条件における水蒸気透過率 [g/(m ² ・day)] : $A_{\text{sur, sp}}$: 試験体の被覆材フィルム面の表面積 (m ²) |
| | D.3.3 b) 式(D.3) ここに、 | $m'_{t, \text{air, sp, std}}$: 試験体の標準条件における水蒸気透過率 (g/day) | $m'_{t, \text{air, sp, std}}$: 試験体の標準条件における乾燥空気質量変化率 (g/day) |
| | D.3.3 e) | 端部シール層の…を乗じることによって求め、蒸着複合フィルムの表面積とする。 | 端部シール層の…を乗じることによって求め、被覆材フィルム面の表面積とする。 |
| | D.3.3 f) | 標準条件…用いて、標準条件における被覆材端部シール層の単位長さ当たりの乾燥空気透過率を、式(D.5)によって求める。 | 標準条件…用いて、標準条件における被覆材フィルム面の単位表面積当たりの乾燥空気透過率を、式(D.5)によって求める。 |
| | D.3.3 f) 式(D.5) ここに、 | $A_{\text{sur, sp}}$: 試験体の蒸着複合フィルムの表面積 (m ²) | $A_{\text{sur, sp}}$: 試験体の被覆材フィルム面の表面積 (m ²) |
| | D.3.3 g) 式(D.6) ここに、 | $A_{\text{sur, D}}$: 試験体の蒸着複合フィルムの表面積 (m ²) | $A_{\text{sur, D}}$: 製品の被覆材フィルム面の表面積 (m ²) |